

英語科学習指導案

2005年12月 日() 校時

第1学年 男子2名 計2名

指導者 中宮 久美子

1. 単元名 まとめⅡ

2. 単元について

2つの部分から構成されている単元である。①2学期の学習内容のまとめ。②スキット。①では2学期に習った文法事項を整理しその定着を図る。ここでは、生徒の間違いの傾向から、特に再確認する部分を強調し、正しい文法事項の定着を図りたい。②のスキット『ファーストフード・レストランにて』では英会話の楽しさを実感し今後の学習の意欲付けとしたい。

3. 研究とのつながり

仮説1 教材や学習課題の提示の仕方を工夫することにより、生徒は課題意識を持って意欲的に学習に取り組むことができる。

*本時のテーマ・目標を生徒にとってよりわかりやすい言葉で提示(黒板掲示)する
→課題意識を持って意欲的に学習に取り組む

仮説2 考える時間を確保し、生徒の思いや考えに基づく学習活動を支援し、充実させることにより、生徒は自己の考えを整理し、進んで発表することができる。

*自分の好きなものを注文する場面を設定する→現実に近い学習環境
*より本物に近い教具を用意する→現実に近い学習環境を整える 表現
*応用会話を模造紙で掲示する→集中できる学習環境を整える
*困った時に便利な表現を掲示する→コミュニケーションへの意欲

仮説3 評価の観点や個に応じた指導の手だてを明確にし、一人一人の学習状況に応じて成果を認め、励ますことにより、生徒は更に自己を高めるよう取り組むことができる。

*前時に学習したことをワークシートで明確にする→自信を持って本時の学習へ進む
*正確に話すことよりもコミュニケーションしようとする努力を誉める→向上心
*個々の学習状況に応じて発表の場面を選択する →向上心
*生徒にわかりやすい言葉と形(3択で挙手)で自己評価をさせる→学習成果の確認

5. 単元計画・評価規準（3時間）

時数	学習目標・学習内容	評価規準
1	<p>2学期の学習内容（文法事項）を整理し、3学期の学習に備える</p> <p>1. 文の形</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「3人称単数現在」の文 <ul style="list-style-type: none"> ・主語（名詞）を適切な代名詞に変える。 ・Does, doesn't を使った文の動詞は原形にもどすと。 * 「現在進行形」の文 <ul style="list-style-type: none"> ・ing に意識が向き、be 動詞を忘れる傾向がよくみられる。 ・一般動詞と be 動詞は原形のままで一緒に使われることはない。 * 「過去形」の文 <ul style="list-style-type: none"> ・Did, didn't を使った文の動詞は原形にもどす。 <p>2. 語の形</p> <ul style="list-style-type: none"> * 代名詞の色々な形 <ul style="list-style-type: none"> ・文章の中での適切な活用の仕方を再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 理解しながら（質疑応答）板書事項をノートにまとめることができる（関・意・態） * 文法に従って適切な語を適切な形で使用し、その理由を説明することができる。（言・文） <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>備考 一番の課題は、1学期に学習した be 動詞を使った文と、2学期に学習した一般動詞を使った文の疑問文・否定文の作り方を頭の中で整理し定着させることである。今後も区切り区切りで復習・整理を行っていく必要がある</p> </div>
1	<p>ファーストフードレストランにおける基本的な英会話を習得する</p> <p>1. 教科書のスキットを役割練習し、注文の仕方などを身につける</p> <p>2. お金の種類や定員と客とのやりとりを通して文化の違いを学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 積極的に対話練習に取り組んでいる（関・意・態） * 役割練習において基本的な表現を使って対話することができる（表） * お金の種類や定員と客との関係について理解することができる（言・文）
1 本時	<p>ファーストフードレストランにおける応用会話を体験し、英会話に対する意欲的・実践的な態度を培う</p> <p>1. 前時の確認：基本文の復習</p> <p>2. 応用表現を学び、既習事項とともに、応用会話に挑戦する</p> <p>3. 注文の仕方を通して文化の違いを学ぶ</p>	<p>①既習事項や本時で習った表現、自分なりの表現などを駆使して積極的に自分の意志を伝えようと努力している（表）</p> <p>②会話をよく聞く。対話練習に意欲的に取り組んでいる（関・意・態）</p> <p>③細かな注文の仕方などを知り、文化の違いを理解する（言・文）</p>

6. 本時の目標

○ファーストフードレストランにおける応用会話を体験し、英会話に対する意欲的・実践的な態度を培う

7. 本時の展開 (3/3)

	生徒の活動・評価規準	教師の指導・支援	備考
導入	<p>1. 既習の英語表現を使って簡単な会話をする。</p> <p>2. 前時に学習した内容を想起する (1) 空所に入る適切な表現を確認しながら書き入れ、プリントを見ながら一緒に練習をする (2) 前に出て基本スキットの発表をする ①表現の能力</p> <p>3. 本時の目標とその意味を理解する</p>	<p>1. 挨拶・天気・昨日したことなどを題材に英会話をリードする 《リラックスできるような内容・既習事項を使って会話できるような内容を心がける》</p> <p>2. 前時の復習・確認を行う (1) プリント①の配布・役割練習 《会話をしながら一緒に既習事項を想起・確認(教科書)・練習し、出だしでつまづかせないようにする》 (2) 基本スキットを生徒だけで発表するよう指示する 《自分が英語で何を言っているのか考えながら会話ができるように日本語でヒントを与える》</p> <p>3. 本日のタイトルと本時の目標を提示(黒板掲示)し、その意図を説明する</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>『君は今日からファーストフードの達人だ!』 ~自分の欲しい物を堂々と注文できるようになろう!~</p> </div> <p>《正確であることも大切だが、わからないこと、不安な状況にも何とか対処し、自分の意志を伝えようとする、相手の言うことを理解しようとするのが大切であること》</p>	<p>日常の自然な場面で習った英語表現を使って会話することの楽しさを感じさせ、今日の学習にたいする意欲づけをする</p> <p>復習を行うことで基本表現の定着を図り、本時へのステップとする(自信を持って本時の学習へと進めるようにする)</p> <p>今日の学習の到達点を意識させると共に、これからの活動に対する意欲的な姿勢・態度を持たせる</p> <p>生徒にとってよりわかりやすい言葉で目標を提示する</p>
展開	<p>1. 生徒Y 前に出て教師と応用会話し、何とか会話を最後まで進める ②表現の能力</p> <p>生徒S 生徒Yと教師の応用会話をよく聞き、その内容を理解しようとする(応用表現を聞き取る)</p> <p>2. 黒板掲示物を見て空所にはどんな内容が入っていたかを思い出す ②関心・意欲・態度</p> <p>(1) 発問に答える</p>	<p>1. 1人の生徒とぶっつけ本番で応用会話をを行う 《ゼスチャーなどを使って学習していない英語表現もその内容が理解できるようにする》 《スムーズな会話の流れと意欲的な活動を引き出すため、話すこと・聞くことを得意とするYを指名する》</p> <p>2. 応用会話(黒板掲示)の空所をうめながらスキットを完成させる</p> <p>(1) どんな内容が加わっていたかを日本語で答えさせる →日本文の表現を書き入れる</p>	<p>まだ新しい表現を学習していない状況で、どれだけ現実の場面に対処できるかを実際に体験させてみる →「何とかなる」「何とかわかる」という自信 →はっきりとわからなかった部分を「知りたい」「自分のものにしたい」という欲求</p> <p>英語はわからなかったが、「言っ内容はわかった」という自信を持たせる</p>

<p>(2) 聞き取れた単語・語句を答える (3) 英語を聞き取って答える (4) 新しい英語表現を理解する</p> <p>3. 日本の文化との違いを理解する ③言語・文化の知識・理解</p> <p>4. スキットを見て会話の内容を理解しながら練習をする ②関心・意欲・態度</p> <p>5. 応用会話の際に役立つ便利な表現を知り、活用しようとする</p> <p>6. メニューを見て自分の好きなものを注文する。アドリブ表現にも臨機応変に応答する ③表現の能力</p> <p>A: アドリブにも対応できる B: 応用文を理解し基本文を使って表現できる C: 基本文を使って表現することができない</p>	<p>(2) 英語では何と言っていたか聞く (3) その場面をリプレイする (4) 新しい英語表現を書き入れて説明を加える</p> <p>3. スキットを生徒と一度通して読み文化の違いについて説明をする</p> <p>4. スキットを見ながら教師と生徒で役割練習をする 【教師：店員 生徒：客】</p> <p>5. 便利な表現を教える（黒板掲示） 聞き取れない時・何か分からない時・物を薦められた時などの対処の仕方</p> <p>6. 2人の生徒と順に応用会話を行う 【S→Y順で】アドリブもはさむ (つまった時は日本語でヒントを与える。またはもう一人の生徒から表現を引き出す)</p>	<p>「知りたい」という気持ちを喚起し、再度聞き取るチャンスを与えて「わかる」喜びを味わう</p> <p>店員のセリフにある応用表現は必ずしも覚えなければならない学習事項ではないため生徒は客の役割のみを練習する *Pardon? Excuse me? *What's~? *I'll try one. No, thank you.</p> <p>会話が硬直しない程度にアドリブをはさみ、より現実的な状況を演出する * french fries, a cup of coffee, Do you want cream and sugar? etc.</p>
<p>5. まとめる</p> <p>(1) 本時の学習のねらいを理解し、今後の英語学習への意欲を持つ</p> <p>(2) 自己評価をする 「将来、もし海外旅行へ行ったらファーストフード店に行ったら.. ?」</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>* 大丈夫。注文できると思う。 * 何とか自分の欲しいものは注文できると思う * 注文できないと思う</p> </div> <p>(3) プリントは終了後ノートに貼る (4) 次時の授業の内容を知る (5) 終わりの挨拶</p>	<p>5. まとめる</p> <p>(1) 本時の学習のねらいについて 《正確であることも大切だが、わからないこと、不安な状況にも何とか対処し、自分の意志を伝えようとする こと、相手の言うことを理解しようとする ことが大切であること》 ＝コミュニケーションの能力 ＝コミュニケーションの楽しさ</p> <p>(2) 本時の目標についての自己評価をさせる</p> <p>【3択で挙手させ、感想などもあわせてきく】</p> <p>(3) 応用会話プリント配布。ノートに貼っておくように指示する (4) 次時の授業の内容を伝える (5) 終わりの挨拶</p>	<p>今後の英語学習への意欲づけ * 知らなくてあたりまえ。できなくてあたりまえ。お互いを理解し合うことに楽しさを見つけ、間違いを恐れずに他の国の人達とコミュニケーションしようとする態度を養いたい</p> <p>生徒にわかりやすい形で自己評価をさせる</p>

基本SKIT ファーストフード・レストランにて

Customer (客) : ① _____.

(ハンバーガーを2つ、お願いします。)

Attendant (店員) : ② _____.

(はい。(もちろん))

③ _____ ?

(何かお飲み物はいかがですか)

Customer (客) : Well, one orange juice, please.

Attendant (店員) : OK. ④ _____.

(はい、どうぞ)

Three seventy, (\$ 3.70) please.

Customer (客) : ⑤ _____.

(はい、5ドルです)

Attendant (店員) : Seventy-five,(\$3.75) four dollars,(\$4.00)

and five dollars(\$5.00).

Thank you very much.

模造紙に書き、掲示する

応用SKIT ファーストフード・レストランにて

Attendant (店員) : Hello, ① _____ ?
(_____)

Customer (客) : Well, t wo hamburgers, please.

Attendant (店員) : Sure. Would you like any drinks?

Customer (客) : One orange juice, please.

Attendant (店員) : ② _____ , _____ , _____ ?
(_____ ?)

Customer (客) : Large, please.

Attendant (店員) : OK. ③ _____ ?
(_____)

Customer (客) : Yes, that's it.

Attendant (店員) : ④ _____ ?
(_____ ?)

Customer (客) : To go, please.

Attendant (店員) : All right. Just a moment, please. Here you are.

Customer (客) : ⑤ _____ ?
(おいくらですか?)

Attendant (店員) : Four thirty eight.(\$4.38).

Customer (客) : Here you are.

Attendant (店員) : Thank you very much.

⑥ _____ .
(_____)

Customer (客) : Thanks.

Attendant (店員) : Have a nice day.

Customer (客) : Thank you. You, too.

教師用

基本SKIT ファーストフード・レストランにて

Customer (客) : ① Two hamburgers, please.
(ハンバーガーを2つ、お願いします。)

Attendant (店員) : ② Sure.
(はい。(もちろん))

③ Would you like any drinks?
(何かお飲み物はいかがですか)

Customer (客) : Well, one orange juice, please.

Attendant (店員) : OK. ④ Here you are.
(はい、どうぞ)
Three seventy, (\$ 3.70) please.

Customer (客) : ⑤ Here's five dollars.
はい、5ドルです

Attendant (店員) : Seventy-five,(\$3.75) four dollars,(\$4.00)
and five dollars(\$5.00).
Thank you very much.

応用 S K I T ファーストフード・レストランにて

Attendant (店員) : Hello, ① Can (May) I help you?
(いらっしゃいませ)

Customer (客) : Well, two hamburgers, please.

Attendant (店員) : Sure. Would you like any drinks?

Customer (客) : One orange juice, please.

Attendant (店員) : ② Large, middium, or small?
(大、中、それとも小ですか?)

Customer (客) : Large, please.

Attendant (店員) : OK. ③ Is that it(all)?
(それでよろしいでしょうか)

Customer (客) : Yes, that's it.

Attendant (店員) : ④ For here or to go? (Is this to go or to eat here?)
(お持ち帰りですか、それともこちらで召し上がりますか?)

Customer (客) : To go, please.

Attendant (店員) : All right. Just a moment, please. Here you are.

Customer 【客】 : ⑤ How much is it?
(おいくらですか?)

Attendant (店員) : Four thirty eight (\$4.38).

Customer 【客】 : Here you are.

Attendant (店員) : Thank you very much.
⑥ Here's your change.
(はい、お釣りです)

Customer (客) : Thanks.

Attendant (店員) : Have a nice day.

Customer (客) : Thank you. You, too.